

史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会

(第25期・第4回)

議事要旨

日 時：令和4年(2022)3月4日(金)10:00～12:00

会 場：オンライン(Zoom ミーティングを利用)

出席者：石居人也、奥村弘、長志珠絵、倉員正江、栗田禎子、久留島典子、高
埜利彦、芳賀満、柳原敏昭、若尾政希

説明人：飯島渉

5. 議 題

(1) 前回議事要旨を確認した。

(2) 分科会委員の追加

連携会員の青山学院大学文学部史学科教授飯島渉氏を委員に追加することを了承した。

(3) 意見表出の手順等

若尾委員が資料について説明。「提言」の発出主体は「日本学術会議」であり、分科会名では「見解」となる。査読のあり方については、史学委員会の中で第一査読、その上で第一部にあげていくことを確認した。

(4) 2022年6月25日史料保存利用問題シンポジウムについて

本分科会が日本歴史学協会と共同主催で、第27回史料保存利用問題シンポジウムを開催することにした。テーマは、「アーカイブズ専門職問題の新潮流」として、アーカイブズ専門職を養成する大学の拡大等、現在の専門職養成についての新たな動向について共有するとともに、課題を考えていくことにした。

(5) 日本学術会議資料の保存・管理と公開に関して

前回議事録と状況はかわっていない。

(6) 被災史料の救済・保存をめぐって

若尾委員が、2022年1月10日13:00~16:30開催の2021年度歴史文化資料保全首都圏大学協議会（人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」主催）での議論を紹介した。首都圏での史料救済・保存の体制にあり方について、今後議論を深めていくことを確認した。

(7) COVID-19 パンデミックをめぐるアーカイブズの構築のために

飯島渉氏（青山学院大学教授、日本学術会議連携会員）氏より「感染症をめぐる資料をどう残すか？」という報告をしていただき、議論した。この課題については、継続的に審議を行うことを確認した。

(8) その他

次回委員会は、6月25日のシンポジウム後を予定。